

第 2 章

温室効果ガスの 排出状況

- 1 温室効果ガスの排出状況
- 2 国および県との比較

第2章 温室効果ガスの排出状況

1 温室効果ガスの排出状況

(1) 温室効果ガスの総排出量と純排出量

ア 温室効果ガス総排出量

温室効果ガス総排出量とは、第1章4に示す温室効果ガスの排出量に、該当物質の地球温暖化係数を乗じた量の合計量をいいます。

イ 温室効果ガス純排出量

温室効果ガスの総排出量から、適正に管理された森林による温室効果ガスの吸収量※を差し引いた値を温室効果ガス純排出量とし、本計画における温室効果ガスの削減目標（次章掲載）は、この純排出量をベースに設定します。

(2) 排出区分別の二酸化炭素排出量

温室効果ガスのうち、総排出量に占める割合の最も高い二酸化炭素の排出量について、「エネルギー転換部門」「産業部門」「家庭部門」「業務その他部門」「運輸部門」「工業プロセス分野」「廃棄物分野」の7つに区分し推計しました。

【表2-1】二酸化炭素の排出区分

排出区分	概要
エネルギー転換部門	電気事業者の発電所、ガス事業者の都市ガス等製造施設
産業部門	製造業、鉱業、建設業、農林水産業
家庭部門	個人世帯
業務その他部門	事業所ビル、ホテル等のサービス関連産業、公的機関
運輸部門	自動車、鉄道、船舶
工業プロセス分野	セメント、生石灰などの鉱物製品やアンモニアなどの化学製品を工業的に製造する際の物理的・化学的プロセス
廃棄物分野	廃棄物の焼却、下水処理等

※ 地球温暖化対策地方公共団体実行計画（区域施策編）策定・実施マニュアル算定手法編（Ver. 1.1）（令和3年3月環境省）に準拠（以下同じ）。

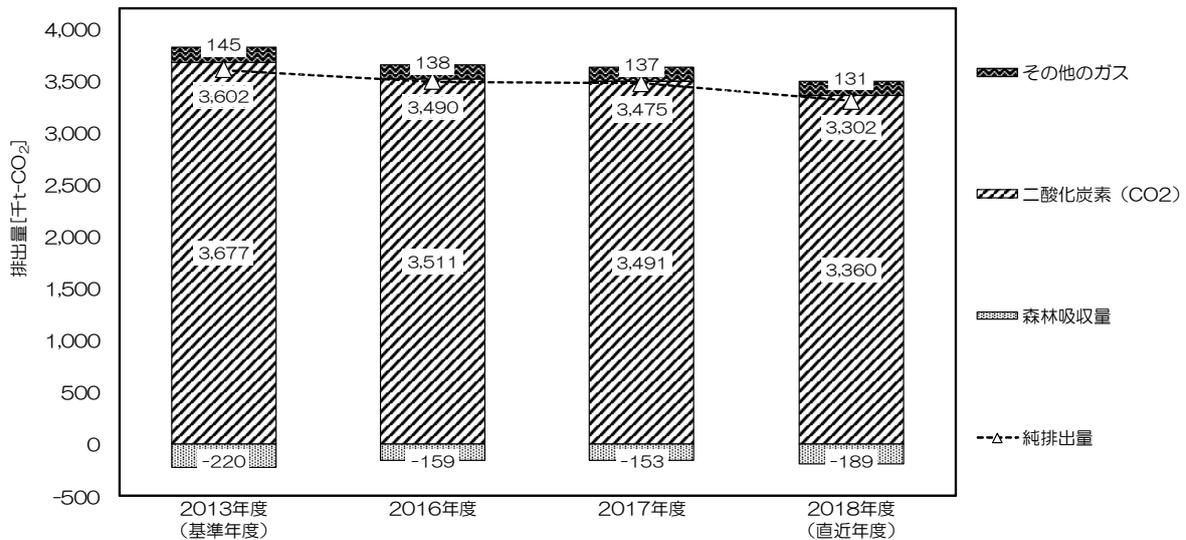
【表2-2】秋田市の温室効果ガス総排出量※、純排出量および排出内訳

(単位：千t-CO₂)

	2013(平成25)年度 (基準年度)		2016(平成28)年度			2017(平成29)年度			2018(平成30)年度 (直近年度)		
		構成比		構成比	基準 年度比		構成比	基準 年度比		構成比	基準 年度比
二酸化炭素(CO ₂)	3,677	96.2%	3,511	96.2%	-4.5%	3,491	96.2%	-5.1%	3,360	96.3%	-8.6%
エネルギー転換	142	3.7%	134	3.7%	-5.6%	126	3.5%	-11.2%	104	3.0%	-26.7%
産業	1,379	36.1%	1,291	35.4%	-6.4%	1,286	35.4%	-6.7%	1,239	35.5%	-10.2%
家庭	604	15.8%	531	14.6%	-12.1%	554	15.3%	-8.3%	539	15.4%	-10.8%
業務その他	623	16.3%	593	16.3%	-4.8%	580	16.0%	-6.9%	546	15.6%	-12.4%
運輸	834	21.8%	850	23.3%	1.9%	837	23.1%	0.4%	829	23.7%	-0.6%
工業プロセス	51	1.3%	65	1.8%	27.5%	70	1.9%	37.3%	70	2.0%	37.3%
廃棄物	44	1.2%	47	1.3%	6.8%	38	1.0%	-14.7%	33	0.9%	-25.0%
メタン(CH ₄)	52	1.4%	47	1.3%	-10.3%	47	1.3%	-10.6%	47	1.3%	-10.9%
一酸化二窒素(N ₂ O)	85	2.2%	86	2.4%	0.7%	83	2.3%	-2.4%	75	2.2%	-11.9%
フロン類	7	0.2%	5	0.1%	-28.6%	7	0.2%	0.0%	9	0.3%	28.6%
合計(総排出量)	3,822	-	3,649	-	-4.5%	3,628	-	-5.1%	3,491	-	-8.7%
森林吸収量	220	-	159	-	-27.7%	153	-	-30.5%	189	-	-14.1%
総計(純排出量)	3,602	-	3,490	-	-3.1%	3,475	-	-3.5%	3,302	-	-8.3%

※ 端数処理の関係上、合計の数値に誤差が生じるものがあります(以下同じ)。

出典) 2021年度秋田市温室効果ガス排出量現況推計結果から作成



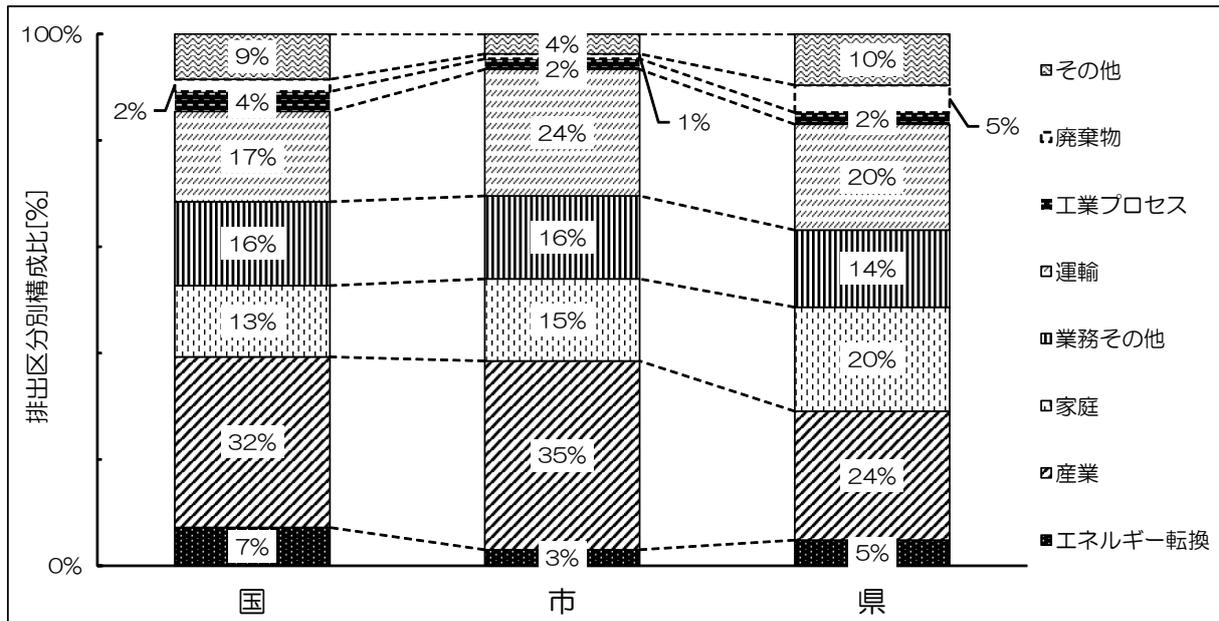
【図2-1】秋田市の温室効果ガスの種類別排出量

出典) 2021年度秋田市温室効果ガス排出量現況推計結果から作成

表2-2で示すとおり、2018年度(直近年度)の本市の温室効果ガス純排出量は330万2千t-CO₂で、2013年度(基準年度)の純排出量360万2千t-CO₂と比較すると、29万9千t-CO₂(8.3%)の減少となっています。

また、図2-1の秋田市の温室効果ガスの種類別排出量を見ると、二酸化炭素(CO₂)の排出量が最多ですが、2018年度の二酸化炭素排出量は、2013年度から8.6%減少しており、フロン類以外の温室効果ガスも同様に減少しています。

2 国および県との比較



【図2-2】本市と国および県の温室効果ガス総排出量に占める排出区分別構成比

出典) 環境省 2018(平成30年度)の温室効果ガス排出量(確報値)について
 H30(2018)秋田県における温室効果ガスの排出状況等について
 2021年度秋田市温室効果ガス排出量現況推計結果から作成

【表2-3】本市と国および県の温室効果ガス総排出量に占める構成比順の排出区分

	国		市		県	
1	産業	32%	産業	35%	産業	24%
2	運輸	17%	運輸	24%	運輸	20%
3	業務その他	16%	業務その他	16%	家庭	20%
4	家庭	13%	家庭	15%	業務その他	14%
5	その他	9%	その他	4%	その他	10%
6	エネルギー転換	7%	エネルギー転換	3%	廃棄物	5%
7	工業プロセス	4%	工業プロセス	2%	エネルギー転換	5%
8	廃棄物	2%	廃棄物	1%	工業プロセス	2%

図2-2で示すとおり、本市の温室効果ガスの排出区分別構成比は、産業部門、運輸部門、業務その他部門、家庭部門の順に高い割合を占めています。

また、表2-3で示すとおり、本市と国および県を比較すると、産業部門が総排出量の約3分の1を占めている点や、構成比順が本市と国とで一致している点から、県よりも国と類似していることがわかります。